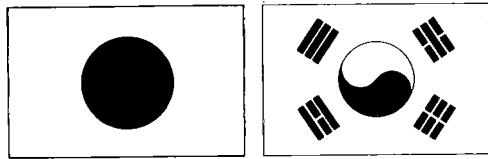


1983年 RI会長主催 日韓親善会議について



1983年 RI 会長主催日韓親善会議日本側推進・実行委員長

市川東 青山 幸高

“ロータリーを通じて世界理解と平和を”のテーマの下、マックヤフリー RI 会長主催の日韓親善会議が1982年4月27日～29日にソウルで開催されたのは、つい昨日のように記憶に生々しい。RI 会長主催の親善会議は何らかの紛争が存在する地域で開かれるものと承知していたが、この日韓親善会議が提唱された時点では、日本国と大韓民国の間にはさしたる紛争もないように考えられ、どうしてこのような会議が日韓間で開催されるのか、多少の疑問を感じていたのが私の当時の偽らざる心境であった。しかし会議に参加してみて、成程親善会議開催が極めて大きい意義のあったことを痛感した。

この1982年の RI 会長主催日韓親善会議には両国からそれぞれ500人、計1,000人のロータリアンが参加し日韓両国の過去、現在、将来について権威ある方々から率直な意見を承り、また経済・文化・教育・青少年問題について両国の有力なロータリアンから有益な講演を拝聴し、大いに考えさせられるところがあった。この会議で特に印象に残ったことは韓国側のロータリアン諸君の心の籠った歓待で、特にホームビジットの企画は参加した日本人の心を深く打つものがあった。今一つは会議の合間に供覧され

た、韓国の伝統的文化の粋ともいべき数々の余興であった。ただ初めての親善会議の事として以上のような深い感銘を受けたものの、個々のロータリアン同士が胸襟を開いて日韓の将来について語り合う機会が少なかったことは、いささか物足りない感じがしなくはなかった。

そこで会議後開かれた反省会では今回の成功を踏まえて今後具体的に、いかに現実の活動として発展させて行くかについて語り合われ、常設機関である日韓親善連絡委員会を中心として、今後の具体策につき協議することとなり、1982年9月10日に神戸市において日韓親善連絡委員会の会合を持つべく計画された。

1982年7月26日、向笠 RI 会長から韓国の朴東奎 P G と共に、私が RI 会長主催日韓親善会議の推進・実行委員長に指名された。そこで、9月10日に計画されていた日韓親善連絡委員会の会合を1983年 RI 会長主催日韓親善会議の第1回準備会合に切替え、韓国側委員金永徽 P G (朴東奎委員長不参加のため、その職務代行)、尹大栄委員 (P G) のほか、呉在環 RI 理事エレクト、呉善煥連絡委員会委員 (P G)、崔鐘沢連絡委員会委員 (P G)、方炫連絡委員会委員 (P G) 日本側青山委員長、細谷実委員、平

島健次郎委員のほか原田秀雄元 RI 理事、伊藤恭一 P G が参加して神戸市のポートピアホテルに会合し、1983年 RI 会長主催日韓親善会議の基本的事項について協議し、次の通り合意に達した。

(1)名称：The Japan-Korea President's Conference of Goodwill (国際ロータリー会長主催日韓親善会議)

(2)期日：1983年4月20日(水)～21日(木)

(3)場所：神戸市 神戸国際会議場および神戸ポートピアホテル

(4)参加人員：両国各250人(各125夫妻)

(5)登録料：1人につき70米弗

その後、円弗換算率の大幅変動と、予算編成上から日本側の登録料は1人につき20,000円とすることが、10月20日開催のガバナー連絡会議で決定された。

(6)プログラムの編成方針：分科会に、重点を置く。

(7)分科会の種類：青少年交流部会(学生・生徒交換 IAC, RAC 相互訪問, 研究グループ交換等)、世界社会奉仕(両国の共同で行なうもの)部会、米山・奨学財団部会、姉妹クラブ部会、日韓親善連絡委員部会

(8)ホームビジット：4月20日夜韓国側ロータリアン夫妻を阪神ロータリアンが歓待する。

以下略

以上の決定に伴い日本側ではまず組織を編成し、予算、資金、各地区参加人員の割当て等ガバナー連絡会議のご協力を仰ぎながら着々具体的準備に入った。

今回の会議の最大の特長は分科会なので、その各部会のコ・リーダーには日韓両ロータリーのエキスパートをお願いすることとし、次の通りの豪華な顔ぶれとなった。

青少年交流部会：竹田恒徳元 RI 理事
河鐘培 366 地区 P G

世界社会奉仕部会：松平一郎元 RI 理事
呉在環 RI 理事エレクト

米山・奨学財団部会：湯浅恭三米山奨学会理事
朴東奎奨学財団理事長

姉妹クラブ部会：原田秀雄元 RI 理事
李丙虎 365 地区 P G

日韓親善連絡委員部会：千宗室前連絡委員長
金永徽 365 地区 P G

今次親善会議に参加する日韓両国ロータリアンの各位は上記の5分科会に概ね平均に分散出席して頂き、約2時間にわたってこれからの日韓親善推進のための具体策について胸襟を開いて語り合っ頂こうという次第である。したがってこれら分科会の成果は、本会議にもましてその内容が濃いものとなることを期待して止まない。

もちろん親善会議の一つの目的には日韓両国のロータリアンの親睦が重要であるので、これについては地元で編成される実行委員会の企画による夫人プログラム、ホームビジット、懇親午餐会、宝塚歌劇団等による余興も企画されており、必ずや来訪韓国ロータリアンに充分満足して頂けるものと期待している。

なお、この機会に韓国のロータリークラブと姉妹関係にあるわが国のクラブで会議終了後、それぞれの地に招待されて、さらに親睦を深める企画を進められんことをお勧めする。

(バスターガバナー)